

被災者支援活動報告号

女性と子どもの安全と安心のために

日本YWCAでは、16年前の阪

*

この紙面は、皆さまからの募金を用いて展開している被災者支援活動の動きについて、第1回目の報告号とさせていただきます。

東日本大震災に際し、女性および国際的なネットワークを持つ日本YWCAは、「女性や子どもたちの安全で安心のため」をキーワードに国内外に向けて中長期支援を呼びかけました。呼びかけ直後より多くの方々のご協力をいただいています。心より感謝申し上げます。

東北の被災地には二つの地域

の輪が広がっています。

被災者支援活動のネットワークを活かして展開できると考えています。この調査によって被災地で新しい出会いもあり、女性たちの支援のネットワークの輪が広がっています。

③福島県新地町での「災害ボランティアセンター」活動支援、大きく分けて三つの支援に軸をおいて活動を展開しています。これらはYWCAが得意とする活動分野であり、YWCAが持つ女性や国際のネットワークを活かして展開できると考えています。この調査によって被災地で新しい出会いもあり、女性たちの支援のネットワークの輪が広がっています。

円の60%に達しました。これまでは

年間目標額2千万

の緊急物資支援を目的にいただいた助成金を含めて

第一期4月末までに、皆さまから送金いただきました被災者支援募金は、調査目的と初期の緊急物資支援を目的にいただいた助成金を含めて年間目標額2千万円に達しました。これまでは

*

東北地方太平洋沖地震被災者支援募金のよびかけ

主に初期の支援活動の物資支援、被災地での聴き取り調査とネットワークづくり、心のケアの準備費用に用いさせていただきます。被災者の思いに寄り添った支援のために、顔と顔が見える関係づくりや支援団体同士の連携は、今後必要となるでしょう。

YWCAがあります。当初建物のダメージが心配されていた仙台YWCAは、幸いにも大きなダメージはなく、現在2階の事務所の一つのデスクを仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク「東北ヘルプ」の事務局(日本YWCAから事務局ボランティア派遣中)に、3階を日本国際飢餓対策機構のボランティアの宿泊所として提供し、またボランティアのための夕食づくりを定期的に行うなど、間接的な支援活動を展開しています。福島YWCAでは、目に見えない放射能汚染に不安を抱く小さな子どもを持つお母さんたちのリクエストに応じて、講演会を企画し、安全で安心して子育てをするための情報の提供に努めています。

これまでの各活動の内容については、次ページに詳細を報告させていただきます。本格的な活動が始まっています。今後はプロジェクトの計画のもとに、地域にあるYWCAが活動の強みを活かして具体的な支援呼びかけを行っていきます。「女性と子どもの安全と安心のため」の中長期支援に引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

西原美香子(日本YWCA総幹事)

The Young Women's Christian Association

YWCA

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題
平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

6

JUNE 2011

No.702付録

www.ywca.or.jp

日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
 - ・平和憲法をまもり、世界に広める
 - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
 - ・女性と子どもの権利をまもり
 - ・パレスチナYWCAの活動を支援する
- (2) 若い女性のリーダーシップを養成する



物資支援

日本YWCAでは、地域YWCAの協力を得て、カウンタートパーのニーズに応じて、女性と乳児の必需品を中心に物資の支援を行ってきました。

震災直後は、日本キリスト教団東北教区被災者支援センターを通して、被災された女性と子どもたちへ、子ども用紙おむつ・粉ミルク・哺乳瓶・哺乳瓶の乳首・哺乳瓶の消毒液・離乳食・おしり拭きシート・生理用品を送りました。また岩手県釜石市災害救援本部と宮城県名取市災害救援本部を通して被災された方々へ、カレールーとチョコレートを送りました。企業からの協力としては、江崎グリコ株式会社様より、カレールのルーとお菓子を支援物資として提供いただきました。

4月には韓国YWCAから飲料水(海洋深層水)ペットボトル(1リットル)2万1600本と乾麺4万3200食が送られました。飲料水は、キリスト教保育連盟加盟の岩手・宮城・福島・茨城・栃木・千葉各県の保育園・幼稚園、60園の子どもたちに送りました。乾麺は、日本聖公会東京教区支援対策本部およびNPO法人日本エ



保育園・幼稚園からは「深層水ですから軟水で、赤ちゃんのミルクにも使えるので大変助かります」「赤ちゃんのお水に困っていましたが、安心して使えます」等のお声が寄せられました。



コソリズムセンターRQ市民災害救援センター東北本部を通して、福島県新地町をはじめとした被災地の方々へお送りしました。

現在、支援物資は現地の需要を満たしつつあるため、YWCAは中長期支援に軸足を移しましたが、今後もカウンタートパーからの要請、また企業等の協力があれば、随時送付体制をとる予定です。

世界に連なる私たち—世界からの支援と応援

YWCAは世界125カ国に拠点をもち、地元市民が主体になって、その国やコミュニティにおけるさまざまな課題の解決のために日々取り組んでいます。また、国境を越えた強いネットワークにより、自然災害からの復興や、人災の被害者支援を相互に行っています。

地震発生直後から、世界各地のYWCAや個人から、安否を気遣うメッセージ、励まし、祈り、具体的な支援やボランティア参加希望など、大変勇気づけられるメッセージが届きました。

■メッセージを届けてくださった世界のYWCA (順不動)
韓国、中国、成都(中国)、香港、台湾、マレーシア、フィリピン、オーストラリア、オークランド(アオテアロア/ニュージーランド)、パキスタン、インド、ミャンマー、タイ、スリランカ、レバノン、ヨルダン、パレスチナ、ウクライナ、デンマーク、フランス、イギリス、フィンランド、オンタリオ(カナダ)、イエローナイフ(カナダ)、バージニア(米国)、ロックフォード(米国)、ペルー、ソロモン諸島、フィジー、ハイチ、ジャマイカ、ジンバブエ、ほか。

たくさんのメッセージの中から、旧ソビエト連邦時代に事故を起こしたチェルノブイリ原子力発電所を抱える、ウクライナYWCAのメッセージを紹介します。

「ウクライナYWCA 2011年3月25日
日本の人々との連帯のメッセージ」

日本YWCAの姉妹の皆様、すべての日本の人々・家族、そして被災されたすべての皆様へ

日本のこの惨事を受けて、心から深く哀悼の意を表します。
日本のYWCAの姉妹の皆様のために祈り、私たちの思いが、日本の人々、被災家族、負傷した人々、そしてすべての人々と共に、この大変困難な時にあるようにと祈ります。
人々への慈愛を信条につながるグローバルコミュニティーの一員として、私たちは皆様と悲しみを共有し、この困難を乗り越えるという皆様の希望

に私たちの希望を重ねます。

また、さらなる原子力発電所事故がアジア太平洋地域を脅かす前に、新潟と静岡の二つの原子力発電所の即時運転中止にも声をあげます。1986年にチェルノブイリ原子力発電所事故を経験した国として、私たちには原子力発電所事故とこの先が如何に危険なものがよくわかるのです。

「世界からのメッセージが私たちをカブける」と日本YWCAからのメッセージにありました。皆様の信仰と希望、勇気と忍耐、人々への大きな愛が、世界に明るい未来があることを私たちに確信させてくださいます。

愛をこめて
ウクライナYWCA

■支援物資とキャンペーン

日本YWCAは国内の状況についての発信・募金呼びかけと共に、原発事故の問題は世界環境にも大きな影響を及ぼす問題として、新潟県の柏崎・刈羽原発、静岡県浜岡原発の運転の即時中止についても呼びかけました。お隣、韓国YWCAからは物資支援の申し出を受け、飲料水の支援を要請しました。

■世界とのこれから

今年7月、スイス チューリッヒで、4年に1度の世界YWCA総会が開催されます。そこでは、世界共通の重要課題が話し合われます。日本YWCAはこの大きな自然災害と人災を受けて、世界125カ国からの参加者たちと経験を共有し、核のない持続可能な世界の実現のために、世界の仲間たちと一層協力していきます。



韓国から 希望の木のメッセージ

「TVを見ながら胸がすごく痛かったです。日本の方ががんばってください! ファイティング!」 「大きな試練の中でも、落ち着きと他人への思いやり、本当に感心しました。がんばってください」。韓国YWCAが、ソウルの繁華街・ミョンドンにおいて、被災者支援の募金キャンペーンを実施した際、街ゆく人々に書いてもらった日本へのメッセージ(A4サイズ 17ページ分)が日本YWCAに届きました。写真はその一部です。

避難者受け入れのための住居支援

「仙台から一時避難してきた留学生ご家族が、その途上の神戸で動けなくなり困っている」。熊本YWCAからの連絡を受けた神戸YWCAは、早速に、被災者受け入れの申し出をしてくださっていた市内のご家庭に、この方たちをお繋ぎしました。約5週間後、このご家族は無事に仙台へと戻っていかれました。

このように迅速に対応できたのは、地震直後、日本YWCAから地域YWCAへの呼びかけに応じて「被災者受け入れ場所調査」に多くの方が応答してくださっていたからです。3月末時点で8地域36件のお申し出をいただきました。現在、受け入れに際してのアウトライン（基本は、次のステップのための一時避難支援、2012年3月末までは家賃無料、光熱費や被災地からの移動交通費は日本YWCAが負担など）を整え、また被災地域および近隣県でのさらなる受け入れの可能性も探りつつ、最新リストを作成中です。そして次の大きな課題は、いかに被災者の方々とこれらリストを繋げていくかです。

当初の対象者「乳幼児を抱えた方・高齢者・障がい者・外国の方々」に加えて、支援者への支援等、受け入れの幅は広がり、変化しています。また宮城・岩手・福島では避難する方々の要望も異なるでしょう。刻々と変化する被災者の方々の必要に応じていくためには、私たちは出会いを大切にしていく必要があると思っています。

5月初めに仙台を訪問し、支援活動を行う方から避難者受け入れのカギは、地域社会とつながれる仕組み（職・同郷者との交わり・こまこまと相談にのってくれる団体等）と助言を受けました。信頼を基盤とした受け入れ支援、まさにYWCAの本領発揮が問われるところです。避難者受け入れは主に神戸YWCAが調整役を担当します。

（被災者支援プロジェクト 西本玲子）

11人のケア

このころのケアに関わる支援は二つの柱があります。1. 被災地におけるこのころのケア活動、2. 避難者受け入れ地域におけるこのころのケア活動。まず被災地では①公開セミナーを実施し、このころのケアの知識や理解を市民に伝えていきます。②ボランティア養成講座を実施し、修了者有志とこのころのケアサロン開催や仮設住宅訪問などを実施したいと思います。これらは仙台YWCAと福島YWCAと相談しつつ進めます。そして避難者受け入れ地域でも、①市民向けの公開セミナーを実施して被災者支援について考えます。②ボランティア養成講座を行い、避難被災者に寄り添い、このころのケアに努めます。全国各地で避難者受け入れが行われていますが、特に被災地に隣接する新潟県は早期から大規模で受け入れています。このため、まず新潟YWCAと協議しつつ、このことを進めていきます。続いて、他の地域YWCAの希望を受けて、実施していきたいと思っています。

このころのケアについては、阪神淡路大震災の時に、大阪YWCA「このころのケア・ネットワーク」を立ち上げて、避難所や仮設住宅訪問と子どもたちのこのころのケア、支援者のケア（ケアする人のケア）にかかわってきた経験を活かしたいと思っています。ただ、今回は被災地域があまりに広範囲なこと、地震と津波の違い、行方不明者の多さ、自殺リスクの高さ、原子力発電所の問題など、阪神の時との違いも多々あります。新たに学びつつ、被災地や被災者の刻々と変化する状況を踏まえつつ進めていく必要があります。さらに、報道などでは見えにくい災害弱者の女性や子ども・外国人・障がい者などのこのころのケアを心がけていきたいと思っています。このころのケア部門は主に大阪YWCAと金香百合が調整役をとっていきます。

（被災者支援プロジェクト 金香百合）

福島県新地町災害ボランティアセンター活動支援

震災から1カ月を過ぎた頃、関係者に宮城県と福島県の県境にある「新地町」を紹介され、外山真理（東京Y）、成田康子（札幌Y）、前田圭子（広島Y/呉Y）の3人のYWCA職員がこの町を訪問しました。新地町は、人口約8400人の太平洋沿岸の町で、被災世帯数は500世帯（約1500人）で人口の約18%です。災害ボランティアは岩手・宮城に集中し、福島は支援の手が足りないとの情報でした。

4月21日、「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」の支援を受け、地元の社会福祉協議会と全国の社会福祉協議会が中心に協力し、災害ボランティアセンターが開設されました。私たちはちょうどその活動が始まった時期に新地町を訪問、今後のセンターの運営にYWCAも協力しないかとお話をいただきました。その話を持ち帰り、慎重な協議を重ね、福島YWCAが精神的なサポートとなり、全国のYWCAに呼びかけて、新地町の人々に寄り添う活動をしようとして決定した次第です。センターの活動は被災された新地町のニーズに沿って展開されていますが、その内容は刻々と変化します。今後は、仮設住宅で生活される方々と在宅被災者の心と生活の支援が中心になっていくことでしょう。また、新地町の教育委員会と協働し、テレビ電話を通して子どもたちの話し相手になるプロジェクトを名古屋YWCAが担当します。

新地町とYWCAとの出会いは、選んだのではなく、備えられたものと思います。全国のYWCAが協働し、新地町の人々に寄り添い、小規模でも誠実で息の長い活動ができるようにと願っています。

（被災者支援プロジェクト 前田圭子）

*災害ボランティア活動支援プロジェクト会議は、企業・NPO・社会福祉協議会・共同募金会等により構成されるネットワーク組織で、2004年の新潟中越地震の後、2005年1月より中央共同募金会に設置されました。



東北地方太平洋沖地震被災者支援募金へのご協力に心より感謝申し上げます

- 募金 田中美智子 平井佐津紀 遠藤恵美子 鶴長美樹子 岸田善三郎 岩城紀代子 小野小夜子 石黒アキコ 杉村みどり 榎本富美子 有賀三奈子 村上三保子 藤下美知子 中山美津江 徳光美奈子 清水嶋孝 渡辺寿美子 徳光美奈子 小野寺雷子 須藤富代子 横山キミイ 布村美弥子 田坂紗久子 望月桂一郎 具島美佐子 市川真美子 原 芙左恵 坪田未沙子 上村愈巳子 今井多美子 松村ユカリ 谷山久美子 鈴木千鶴子 佐古口道子 石井摩耶子 杉田佐紀子 村上美津子 木田みな子 野村美南子 吉行めぐり 日比野路子 原 美根子 長尾真理子 田口理架子 仁科謙太郎 原田由美子 中瀬古芳江 中山美知子 泉谷五十鈴 三宅あやめ 富岡美知子 仁木三智子 山田久美子 富岡美知子 大里喜美子 田村恵美子 岸本香代子 佐々木秀子 笠嶋多希子 小林喜美子 帆足嘉代子 黒田とめ子 阿部喜久子 田村早千枝 伊藤真智子 大澤恵美子 岡野美和子 伊藤真智子 大西しげ子 井澤須美子 小谷野淳子 宇都宮芳子 伊藤いく代 梶原理子 木下由美子 大田八千代 高橋キヨ子 阿部まり子 吉川真知子 山口ふじ子 朽木美奈子 永井千代子 江尻美穂子 喜多村幸一 石田英理香 石崎喜美子 福井由紀子 三井婦久子 後藤恵美子 貝塚由美子 横内かつよ 出 かずり 伊藤成知子 嶋崎紀代子 嶋川ユキ子 旗 眞紀子 相沢加寿子 高二起世子 宮城崇美子 藤沢寛代子 岡田富美子 甲田真理子 中西トク子 山二起世子 山高万寿子 澤村由紀子 由良喜久子 谷 佐代子 武内富貴代 江川みゆき 広瀬佐栄子 大賀久美子 五十嵐康子 伊藤アヤ子 高月三世子 堀内香代子 堀口千恵子 石橋さなえ 大神聖紀子 柴田千恵子 伊藤富美子 中平多恵子 木岡小枝子 辻村富久子 中田百合子 高野和佳子 木村真理子 森際眞知子 新井英麗奈 齋藤佐智子 竹田とし子 平木貴美子 山地和家子 村上美恵子 長谷川豊子 横田千代子 村上三津保 金子寿一 松村 誠 今給黎とし子 田中亜樹アヘリカ 小園井恭仁子 菜袋洋子 吉田亜希 遠藤瑚奈 増尾悠大 大沢民子 肥田信長 辻井夏子 青木直人 小室京子 岸田晃子 佐藤清子 原田倫代 板垣貴子 田中亜子 常葉俊子 市毛晴佳 浅原由美 甲斐悦江

- 伊野尚子 谷山幸子 秋澤義弘 石垣弘毅 門田節子 梅本弘子 益田明美 大野綾子 青島昭二 寺島順子 松本彰雄 青木浩子 小仁恵子 河津百合 塩尻和子 雷山静枝 小島静枝 諏訪昭子 日暮時子 江 啓子 土屋あや 三井貞子 江尻礼子 石川孝子 安江恵津 村上知子 大能昭子 深田光代 町田裕子 水野潔子 北村和子 帆足道子 大川孝子 日浦華子 望月和子 東平瑞江 上原陸子 新宮武子 田口美穂 石井寛治 桐村巨子 寺山朝子 高橋栄子 小貴トマ 松山伸子 高橋桂子 鴨打美津 阿部光子 汐崎康子 遠藤真理 村上雅子 前川翠子 川村悦子 藤野尚子 高橋孝子 川西 薫 依田良子 渡辺順子 山田愛子 村松孝子 牧野正博 田中淑子 毛利亮子 手島弘美 谷口道子 宮澤弘毅 鎌原忠子 石川和子 小川郁子 早田紀子 落合洋子 窪原弘毅 福田恵子 西田和子 仁科美生 野口富子 松下俱子 仁科静子 伊藤早苗 牛島栄子 小西静子 宮原栄子 折戸和子 且 節子 高柳博一 高柳陽子 渡辺翠子 高木弘子 手島千景 新田和子 湯口 恵 板橋幸子 大谷 翠 白石悦子 八木高子 中尾千佳 大石玲子 調 幸子 秋枝薫子 小林多美 鈴木伶子 植松能子 長 清子 乾 康子 比企敦子 服部友子 彦坂直美 和田妙子 横井弘子 布村耐子 本多峰子 田中蘭子 布村耐子 小谷充子 設楽順子 井出 都 遠谷周子 本橋育子 服部 素 田沼祥子 小島直美 高橋 暁 山本鉄子 丸田昭江 渡辺 暁 三宅泰子 秋野満子 侯 恭子 篠崎泰久 島津良子 森 晶子 小松郁美 三宅文子 秋澤 愛 本田恭子 伊藤悦子 川野 翠 富田朝子 久家昌子 岡 玲子 野村春江 松本啓子 手栗彰子 葛田苑子 実生律子 金剛静慧 坂井純子 白井陽子 吉田道子 坂和 優 前田佑子 岡田康子 村松通子 木村嘉子 片岡和子 山下美代 橋本暢子 齋藤康代 杉原壽子 藤井初子 小林瑛子 梶山好美

- 宮本久子 池田尚子 高橋敬子 瀨下恵子 古川道子 山根滋子 今井美令 浦田伸子 井澤智子 河野富子 内藤安美 小倉光枝 河野富子 芳川雅美 黒木順子 片山 恵 今堀愛子 石渡能子 太記玲子 鶴崎祥子 坂本政子 鈴木敏子 松川ゆか 岩崎妙子 山根尚子 杉山知子 大能昭子 高橋富子 神津房子 北 彩乃 森 洋子 島田照子 松本京子 熊谷麻子 田原照子 福井周平 野戸敏子 桐山 澤 古山幸子 一杉静子 中尾廣美 高木弘子 三浦篤子 林 洋子 江副道子 土橋篤子 小村明子 須部道子 菅田洋子 宮崎京子 増井啓子 菅田洋子 宮崎京子 須部道子 成田 茂 佐藤 環 狩野 廣 古西正子 小松陽子 雀部真理 勝又秀子 斉藤純子 柏木朱実 落合洋子 石原清美 郡 恭子 山田漢子 藤田純子 永井千鶴 石藤治子 藤本綾子 西尾 操 幸福花江 福本綾子 新倉久乃 野田澄子 川西 薫 新倉久乃 山口恒実 阿部幸子 中谷由子 田中英夫 寺嶋公子 小国由子 田中悦子 平山芳子 津戸昌夫 山田裕子 梶山順子 和田万博 楠本道子 松田和子 三枝恵子 安里 章 井田すみ 高島春代 松井倫子 柿崎典子 高田玲子 加藤靖子 田村セツ 高田玲子 岡本靖子 田村雅代 田村敏江 北原恵美 沖村典子 砂子 礼 植田遠志 河村双葉 白田治子 飯塚培夫 高嶋悠光 湯前信子 鬼形恵子 宮内信子 林 信子 神谷俊子 手島基行 根本博子 ソガヒロミ ニシアヤコ シマシヅコ フジワケジュンコ ムチヤマヨシコ パクバクナテン ムチヤマヨシコ コレツネケイ オオクボアズマ ハナモリシズコ イシカワテルコ ヤマトマチコ ミンドウノリコ マツワタクニコ アンドウエリコ カシワタケエコ ワカバヤシリエ カミヤマタケコ ユアサトモアキ ヒオムシヤコ セキヤスジロウ ヒサムネユリコ カトウヒシロウ カワタニメグミ ハシメツヨウ ウチヤマヨシコ アリミツヒロシ マツモトチエ タナカハルコ スズノタカコ ハツノハルコ マツダカズコ タカサワアキ ヌヤマサヒロ コテラケイコ ナカハシマリ シバタサチコ カワダコウジ カミヤリエコ

- イケダヨシエ シモムラユキ オカノユウコ イワハシユリ ヨシダトオル タカラマモキ コウノヒデキ アラヤマトキ エグチアツコ オオキモトコ カメヤフリオ ニシダミサコ ナカムラヨシコ エドナアヤ コバヤシセイコ サクマアヤ リサ・ホラン Joan Doman JOHANNA ZEITZ 山根雲中 高等学校 生徒・教職員 黎明幼稚園 教諭有志 女子学院同窓会 梅花中高PTA・生徒・教職員有志 東京YWCAまきは幼稚園ぶどう組 大阪女学院中学校・高等学校 ブール学院 高橋園 須部道子 NPOレイトクヒ介助派遣サービス 南信和ハウス谷池教子 榊アドワ 有限会社ルミナス 地球小屋 椿屋 近畿中国帰国者支援・交流センター あかし読書会 むさし野読書会 こびつじグループ大橋ヨシ カトリック大阪大司教区 旧カフエ大沢グループ タベの祈りグループ 中国YWCA 成都(中国) YWCA タイYWCA 銜路YWCA 横浜YWCA 湘南YWCA 平塚YWCA 甲府YWCA 新塚YWCA 京都YWCA 大阪YWCA 熊本YWCA 長崎YWCA 松山YWCA 沖繩YWCA 呉YWCA <S.O.>募金箱 札幌YWCA街頭募金 大阪YWCA千里いこいの集い参加者 東京YWCAお弁当とお菓子作りの会 東京YWCA武蔵野センター 東京YWCA新聞を読む会 東京YWCA千葉ルーム 大阪YWCA千里合唱団 新潟YWCA・平和活動をしている仲間たち&新潟市民 東京YWCA武蔵野センターコーラスグループ「コールブルー」 東京YWCA YWCAフィットネスウォ有志 中国帰国者のため大阪YWCA健康老クラブ 大阪YWCAシャロン千里ヘルパーステーション グラダシオン・コチ・チェロコンサート有志 韓国YWCA 江崎クリコ株式会社 (2011年4月30日現在 敬称略) 合計 571件 12,726,651円

東北地方太平洋沖地震被災者支援募金一すべての女性・子どもの安全と安心のためにー 振込先 <郵便振替の場合>口座番号 00170-7-23723 加入者名 財団法人日本YWCA *通信欄に「地震支援募金」とご記入ください。 <銀行振込の場合>三菱東京UFJ銀行 市ヶ谷支店(店番014) 普通預金 口座番号 1282597、口座名義 財団法人日本YWCA

発行所 財団法人日本YWCA 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8 Tel. 03・3264・0661 office-japan@ywca.or.jp 【駿河台オフィス】 〒101-0062千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室 Tel. 03・3292・6121/FAX 03・3292・6122 編集発行人 鈴木伶子 振替 00170-7-23723 (毎月1日発行) 定価1部 150円 年間購読料 1,260円(送料込)